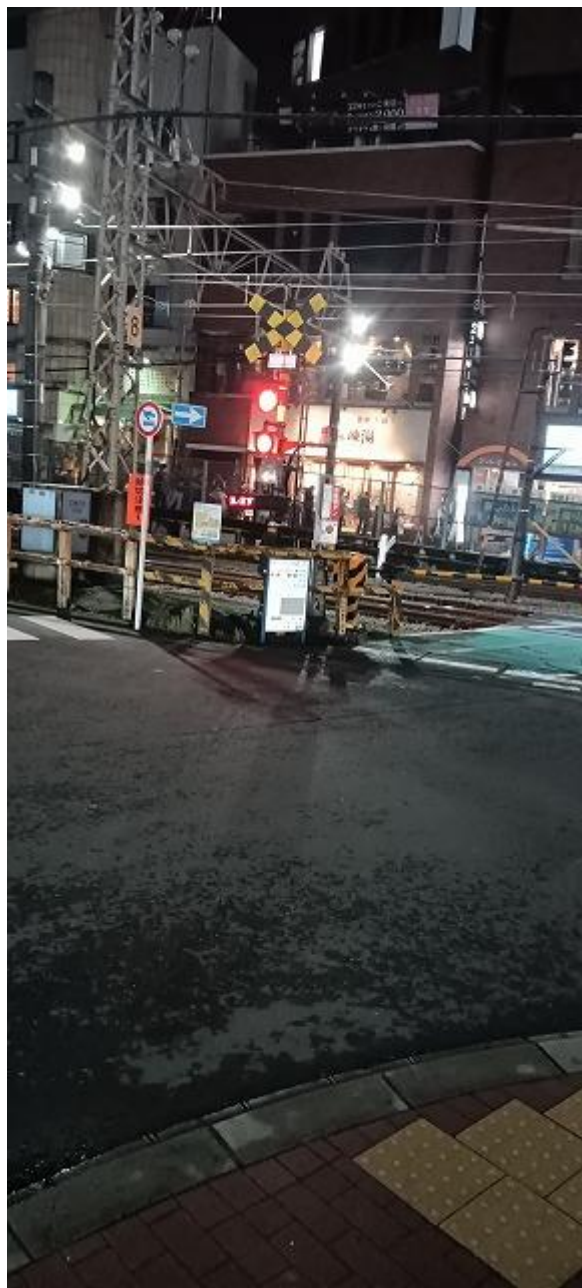


説明員が議員に発した差別だという言葉撤回した結果と波風 2025.06.11

町田市議会 無所属会派 吉田つとむ



街の風景

議員が一般質問を行った答弁の際に、その言葉が差別だから撤回されるべきという趣旨のものでした。もとより、そのような議会無視の発言が通るはずがないのですが、危うく、そうした状況が放置される議事運営が発生しかかっています。

市長が5期目になると、行政権力は絶大です。これは個人の人柄のせいではなく、権力の持続が公務員全体の安住をもたらしているのでしょう。目をつむっていても、日々の仕

事ができるという安直なやり方でしょう。もっとも、役人家業をしたことがない私には推測、推量の世界の話です。

ただし、議員は競争が基本の商売です。数十人（町田市議会定数は36名）が争うわけですが、その選択肢は上の政治家が選んでくれるわけではなく、最初から最後まで国民、住民です。今までどれだけ支持をしてくれていても、「役に立たない」と判断されると一巻の終わりがこの商売の特徴です。企業にあっては、売り上げが不振でも内部留保の取り崩しも可能だし、資本の増強もあるでしょうが、政治家支援者の増強は並大抵のものではありません。

さて、話は戻って、今回の話に戻して、説明員の発言の訂正を放置したらどうなるか、説明員が横柄になって議員の発言など意に介さないことになるかもしれません。市長でも、面倒な手間が無い方がありがたいわけで、万事スムーズと行くべきところ、原則主義者が出てくると、やはり、議会の原則はルール第一で鉄壁です。そうした原則を大事にする議員は、議員の役目を果たしていると少なからぬ住民が判断するものです。議員はそうした気概を示さないと、トラではなくネコと思われれます。あるいは、オオカミであった方が政治家は好まれるかもしれません。

ただし、どんなに偉くふるまっても、議会の個人では会派の勢力には及びません。派閥を作って、発言の場、防衛陣地を持たないと、ほとんど存在価値を持ちません。議会はそのようなルールになっています。もとより、少数派の意見がまともに通ることはありません。チャンスと鋭利な論理はあって初めて、道理が通用することがある程度と思った方がよいと謙虚に考える次第です。